

コミスクだより 「みすまる」

28年12月 創刊号

江南市立北部中学校 学校運営協議会推進委員会

第1回学校運営協議会推進委員会 11/4(金) 開催!!

地域と共にある学校をめざして、コミュニティー・スクールが全国に広く設置されています。(文部科学省)。愛知県では、一宮市と北名古屋市に設置され、児童生徒の健全育成をめざす組織として、その仕組を学校運営に取り入れています。

江南市でも、平成31年度から、市内すべての学校でコミュニティー・スクールが設置される予定です。今年度、北部中学校区(北部中・古知野北小・草井小)では、平成30年度に先駆けてスタートするため、その準備活動が進められています。



推進委員	◎委員長	○副委員長
<u>地 域</u>	◎大脇重雄 (慈光堂)	○白井優子 (江森)
	青山満宏 (村久野)	青山永子 (村久野)
	三輪勝美 (和田)	尾関 真 (小杣)
<u>P T A</u>	野田里美 (H28会長)	
	山崎隆裕 (H26会長)	
	鈴木敬子 (1年生保護者)	
<u>学 校</u>	大藪國義 (校長)	石原香蔵 (教頭)
	浅野政人 (教務主任)	
<u>外部機関</u>	宇野和明 (江南短大学長)	

協議内容

- 学校運営の基本方針・・・スローガン「夢と希望に満ちた学校」づくり
- 推進委員会の活動方針・・・「ふるさとを愛し、地域に貢献できる生徒の育成」
- 部会・・・企画部、広報部、学校評価部

学校運営協議会推進委員会は、北部中学校の学校運営に関わっていく中で、地域で子どもたちを育てる橋渡しの役割をしていきます。

コミュニティー・スクール事業

講演会「命をつなげるために ~東日本大震災から学んだこと~」

- 講 師 菊地訓子 (関上震災を伝える会 語り部)
- 日 時 11月24日(木) 13:45~
- 参加者 全校生徒、教職員、保護者、市議会議員
教育委員、学校歯科医、近隣幼・小・高校長、
区長、学校評議員、主任児童委員、民生児童委員
学校運営協議会推進委員などの皆様



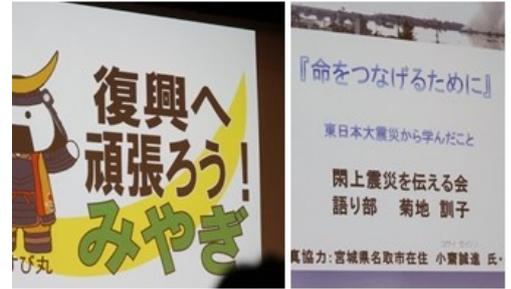
防災を視点に地域にできること・学校にできること!

東日本大震災の語り部 菊地訓子さんの講演を聴きました。当時PTA会長の立場から、震災の様子や立ち上がろうとする姿を子どもたちの目線や感覚で被災地の映像を交えながら、伝えていただきました。

<講演内容抜粋>

宮城県名取市閑上地区で特に被害を大きくした原因

- 1 地震と共に防災無線が全く機能しなかったこと。
- 2 堤防があるという安全神話が返って避難を遅らせたこと。
- 3 地震発生後、津波発生までに1時間ほどあり、家に戻った方が命を落とされたこと。



- 先人からの教えを大切にしたい。石碑は史実を伝える。
- 家族の避難行動について親子で会話してほしい。
- 地域の土地の様子を知ってほしい。地名が土地の様子を伝える。
- 安全神話に頼らないで欲しい。絶対安全はあり得ない。
- 避難訓練を大切にしたい。筋書きのない避難訓練を。

最後に、震災当日に起きた自身の家族の行動を聴きました。「失った命はたくさんありますが、いま、手を取り合って、支え合っていこう」とする気持ちを子供たちから教えてもらったことを何度も熱く語られました。

そして、生徒を代表して、生徒会長より「この地域に必ず起こるだろう地震に備えて、地域と共に、できることを見つけないか」というお礼の言葉で会を閉じました。

参加された保護者の方・地域の皆さんのご感想より

・避難訓練の大切さ、地域の方々との関わり大切さ、命・友人の大切さなど貴重なお話をたくさん聴かせていただきました。中学生にできること、大人たちにできることなどいろいろと考えさせられました。(保護者)

・子供たちの思い、親たちの思い、とても心に響くお話でした。人とのつながりを大切にもう一度、子どもたちとよく話をしていきたいと思えます。(保護者)

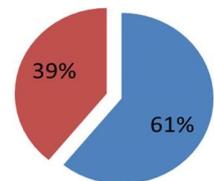
・閑上地区には2012年、3月にボランティアで訪れました。町が無くなっている様子や中学校を拝見して、胸が痛みました。(民生児童委員)

・今日のこの会がきっかけとなって地域防災が広がって欲しいと願っています。(区長)

・中学生が災害に積極的に関わりをもとうという意欲を育てようとする姿勢を地域として、大いに感謝したいと思います。(学校運営協議会推進委員)

この会を通して防災の意識が高まりましたか？

- とても高まった
- 高まった
- 高まらなかった



学校と地域と防災を繋ぐきっかけになりましたか？

- きっかけとなった
- あまりそうは感じない
- もうひと工夫必要

